

情報教育アドバイザーとは？

ICT機器を使った授業を支援するため、北部、中部、南部それぞれに1人ずつ配置しています。

伊藤先生は平成19年から5年間、市の情報教育教科指導委員を務め、令和3年度から情報教育アドバイザーに就任。市内の全学校を巡回し、指導・助言を行っており、教員に対するソフトウェア操作研修なども企画しています。

【情報教育アドバイザー】
雁が音中
伊藤喜文先生



子どもたちの成長

今まで使用していたチョークや黒板、鉛筆やノートといった道具にICT機器が加わったことで、これまで以上に、子どもたちの成長した姿を見ることができるようになりました。

1つ目は、主体的に学ぶ姿です。子どもたちは疑問を感じたらタブレット端末を使って調べることができ、今まで以上に進んで調べ学習に取り組むようになりました。

2つ目は、表現力を磨く姿です。タブレット端末のアプリを使って、調べたことや自分の考えを見やすくまとめたり、プロジェクトを使って分かりやすく説明したりする学びを繰り返すことで、情報を活用する力が身に付いてきました。

3つ目は、協働的に学ぶ姿です。ICT機器を活用し、問題解決に向けた話し合いや討論、実験、プレゼンテーションなどに取り組んでいます。友達と一緒に学ぶ機会が増えたことで、これまで以上に、お互いの考えや立場を尊重し合って活動するようになりました。

教員の授業スタイルも変化

教員にもタブレット端末が整備され、協働的な学びに取り組みやすくなりました。特に、昨年の夏にプロジェクトや大型ディスプレイが設置されたことで、授業のスタイルが大きく変化しました。これまで拡大印刷していた掲示物はペーパーレス化され、大きく鮮明に映し出すことができるようになりました。電子ペンは子どもたちにも簡単に操作できるため、授業にプレゼンテーションの場面を取り入れることが増えてきました。

時代の変化に合わせた教育を実現するために、教員もICT機器の活用する方法を学んでいます。子どもたちの主体性を引き出し、学びを深めるために、いろいろな工夫をしています。



教えて 今の授業どんな感じ？



東刈谷小 亀山奈穂子先生

プロジェクターは、タブレット端末や書画カメラとつながりだけできれいにスクリーンに映ります。操作もスクリーンを直接触るだけなので、簡単で使いやすいです。また、その場で撮った写真や子どもたちの実演を大画面で見せられるため、子どもたちの思いに寄り添った授業を行うことができます。これからも、子どもたちが生き生きと楽しく取り組めるよう、使い方を工夫していきたいです。



朝日中 深谷瞬先生

理科の授業では、ほぼ毎日電子黒板を使用しています。直接の書き込みや、図の作成だけでなく、インターネットを使ってデジタル教科書や動画の視聴もできます。書き込みをデータ保存できるので、授業の復習に活用でき、準備の負担が大幅に削減されました。今後は、オンライン会議ソフトを活用して校外の人たちとの交流の機会を作りたいです。



最初は操作で戸惑うこともありましたが、でも、タブレットを使うようになって、資料などを調べやすくなり、内容をより理解でき、授業が楽しくなりました。
双葉小 金原さん



タブレットを使うようになってからみんなが意見を出すようになり、授業が明るくなりました。友達の意見を聞いて「そんな考えもあるんだ！」と新しい発見もあります。
衣浦小 峯松さん



授業の中でタブレットで資料を作ったり、調べたりしてからみんなの前で発表する機会が増えました。パソコンの基本操作も教わっていて、将来に役立つスキルを学んでいるのを実感しています。
雁が音中 小林さん、矢田さん



タブレットで英語の音読の様子を撮影し、AIが採点してくれます。発音が上達していることを実感できます。また、生徒会選挙ではタブレットを使った投票を行い、集計の手間が省けて便利になりました。
刈谷南中 柴田さん、安藤さん



刈谷の教育ここがすごい！

朝日中 令和3年度ソニー子ども科学教育プログラム「全国最優秀校」

朝日中では、「科学が好きな生徒を育てる」という目標に向けた研究を行っています。その中で、地域の企業や夢と学びの科学体験館と科学教室を行うなど、地域と連携しながら授業に取り組みました。その実績が評価され、令和3年度「ソニー子ども科学教育プログラム」で全国最優秀校に選ばれ、「子ども科学教育

研究全国大会」の会場となり、昨年11月4日には全国から多くの先生が訪れました。3年4組で行われた化学変化とイオンの中和を題材とした授業では、クニマスが田沢湖に里帰りできる方法を見つけようと思いを巡らせていました。



ICT教育のこれから



タブレット端末を利用することで、今まで自分の考えを発言することをためらっていた子どもたちも、自分の思いを伝えることができるようになってきています。オンラインで専門家や遠くの人と一緒に学ぶことも始まっています。学習アプリを利用し、個人の理解度や習熟度に合わせた学びも進んできています。ICT教育は、子どもたちの豊かな学びのために、ますます広がっていきます。刈谷市ではこれからも「協働的な学び」と「個に応じた学び」を両立し、子ども一人一人が「学ぶ楽しさ」や「できる喜び」を感じられる授業づくりに取り組んでいきます。